

第 1 回 山鳥坂ダム環境検討委員会の  
意見・質問に対する今後の対応方針について

国土交通省 四国地方整備局  
山鳥坂ダム工事事務所

# 第1回 山鳥坂ダム環境検討委員会（平成16年12月13日 開催）

## 意見・質問に対する今後の対応方針について

No.	分類	意見・質問の内容	第1回委員会における回答の要旨	今後の対応
1	事業計画	貯水予定区域の最上流端に現在、砂防ダムがあり、魚の動きがそこで分断されているが、その落差による分断をなくすことが重要と考える。自然環境としてはその堰が無い方が望ましいと思う。 スパイラルな魚道をつくるとよい。	肱川全体の課題として考えていく必要がある。	肱川全体の課題として考えていく必要があるが、山鳥坂ダム事業として取り組む課題となるか否かについては今後の検討が必要である。
2	事業計画	ダムを造れば確実に河川の連続性は破壊される。 魚道等についてはあらかじめ計画を立てるのが筋である。	ダム堤体の高さが103mであること、水位差が非常に大きいことから課題として考えてはいるが、難しく、現在の事業の中では考えていない。生物的な遮断をしたときに、どのような影響がでるのか、また、その影響を軽減する方法について検討していきたい。	同左
3	事業計画	現在発表できる範囲で跡地利用についてどのように考えているか教えていただきたい。	例えば土捨て場については移転した地域の方のための公共施設や生活再建場所にすることが考えられるが、細かい内容については、現在詰めている最中である。準備書までにはお見せできる形にしたい。	同左
4	事業計画	富郷ダムの場合、土捨て場の1箇所にピオトーブを、もう一箇所にラグビー場を造り成果をあげている。 そのあたりについても検討していただきたい。	回答なし。	人工的な利用だけでなく、自然環境の復元についても、土捨て場が計画されている現地の環境条件に応じた利用を検討する。
5	事業計画	貯水予定区域で伐採した樹木はどこに持っていく予定かを示してほしい。	水質を考えた場合伐ったほうがよいと思うが、環境面からどのようにしたら良いのか、先生方の意見を聞いて最終的に決めたいと考えている。	同左
6	事業計画	今年は東予や中予で集中豪雨があり、流木や土砂が大量に出た。このようなときにダムの一つの効果として、流木を貯めて下流の災害を防ぐことがある。そのようなことも考えておく必要があるのでは。	そのことは現在話題になっている。今後の課題として考えていく必要があると思われるが、まだ具体的にダムの防災機能をどのようにするかまでは行き着いていない。今後皆さんのご指導を受けながら考えていく事項と思っている。	同左
7	事業計画	試験湛水の期間の設定、また試験湛水中に特別の配慮が必要かどうかについても検討をしていただきたい。	湛水を行なう前に計画を詰め、考慮して行きたいと考えている。	同左
8	環境（全般）	水質を考えると上流から急激に濁りが入るのか、なだらかに入るかによって水の混ざり方も違ってくるのでアセスではそのようなことも考慮すべきだ。	回答なし	山鳥坂ダムの流入末端は嵯峨谷堰堤から下流約1kmであり、現状でも自然流下しており、なだらかに入ってくると考えられる。
9	環境（全般）	予測・評価を行うときには既設の砂防ダムや新たに建設を予定している砂防ダムを含めた形でできる方法を考えて欲しい。	新たな砂防ダムの計画はないが、土捨て場には擁壁、堰堤のようなものができる。 それらについては詳細設計を実施し、影響評価に反映して行きたい。	砂防ダムの新設による下流河川への土砂流入の抑制という観点からみると、山鳥坂ダム予定点よりも下流側には新設ダムの計画は現時点ではないので、予測にあたってとくに留意する必要はないと考える。
No.	分類	意見・質問の内容	第1回委員会における回答の要旨	今後の対応(案)
10	環境（水環境）	ダムの供用及び貯水池の存在において、水素イオン濃度が選定されていない理由を示して欲しい。 富栄養化すると夏場に溶存酸素濃度が高くなり、それに伴いpHも高くなるのが表水層に出てくる。	供用後の富栄養化の中でCOD、窒素、リンについて考えておけばpHについてもある程度評価できると考えている。	同左
11	環境（水環境）	(No5の回答に対して) 鹿野川ダムのpHが夏場が上がっていることが新聞に書かれている。地元の方も注目している。地元の方が分かる形で評価するべきと考える。	検討する。	今後、別途説明することに留意しておく。

12	環境 (水環境)	工事中の水環境の項目で、土砂による水の濁りが選ばれているが、たいていはそれに伴いリン等と一緒に出てくる場合が多い。濁っているように見えない段階でリン濃度が高くなっている可能性がある。この時の富栄養化も同時に検討する必要があるのではないか。再検討をお願いする。	新しい水質予測モデルで、そのような条件を何とか反映できるのではないかと考えている。 また個別に相談させていただきたい。	工事中に流出するリン等は工事実施区域内で滞留することはなく、工事前と同様に河川を流下するため、富栄養化の可能性はないと考えている。
13	環境 (動植物)	動物の項目の「重要な種」とは、環境省と愛媛県のレッドデータブックを基準にしているのか示してほしい。	それ以外にも、種の保存法、天然記念物等についても基準にして選定している	不要
14	環境 (動植物)	10年以上も生物の調査が続けられてきた。膨大な調査データがある。その調査結果をわかり易く整理していただき、一般の方にもわかり易いように提示していただきたい。	そのように考えている。	既往の調査成果をリスト表にまとめる他、「山鳥坂ダム周辺の環境」として既往の調査資料を整理し、公表する予定である。
15	環境 (動植物)	かなり調査をやっているのでもうやることは無いという気がする。その後も調査を続けているのかを示してほしい。	今後環境影響評価を行わなければならないのでそれに向けて今までのデータを洗い直して、不足している部分について追加調査を行っている。	不要
16	環境 (生態系)	ダム上流側の堆砂や下流側の河床の低下、粒径の粗粒化等を考えているのかを示してほしい。	提示した「環境面から考慮すべき項目の選定表」には書かれていないが、その問題については生態系の項目の中で、動物や植物へどのように影響していくか予測していく。	同左